

2023年 7月 12日

社会学研究科

2023年度リサーチ・コロキウム実施要領

1・目的

博士後期課程の学生の博士學位論文執筆を支援し、集団指導を受ける機会を設けること。2022年度入学者から、「リサーチ・コロキウム」で學位請求論文に向けた研究の進捗を報告し、審査に合格していることが學位請求論文提出の条件となる。

2・対象

2022年度以降 社会学研究科博士後期課程入学者

※ただし、以下のいずれかに該当する者を除く

- ・ 學位論文計画書の審査に合格していない者
- ・ 「リサーチ・コロキウム」実施時に休学している者

3・日時

2024年 2月 21日（水）

人数に応じて会場を分割し、zoom による開催とする。

4・内容

- ① 報告の内容は、博士論文の序章もしくは1章分に相当する内容とする。具体的な内容は、指導教員及び副指導教員と相談して決定する。一例として、問題意識と論文のテーマ、先行研究のレビュー、論文の主張と独自性、用いる方法と資料、全体の構成と概要、文献一覧など。
- ② リサーチ・コロキウムは、4研究分野ごとに開催する。
- ③ レジюме（パワーポイントやワードなどで作成したもの）を開催1週間前までにmanaba上に提出する。レジюмеにあわせて報告ペーパー（博士論文執筆へのステップとなる論文草稿や問題意識を文章化したもの、分量のしぼりは設けないが、目安は16,000字程度）の提出も推奨される。
- ④ 指導教員及び副指導教員が研究上必要と判断し、承諾した場合には、提出するレジюме、報告ペーパー（目安は6,400ワード程度）を英語で作成し、報告を行うことができる。
- ⑤ 一人当たり報告20分、質疑20分とする。提出されたレジюмеに基づいて報告することを原則とする。
- ⑥ 大学院生（学部5年一貫生含む）全員に公開する。報告者と同じ専門分野の大学院生は、原則として当該の会場に出席する。

- ⑦ 可否の基準は次のとおりとする。「学位論文審査の基準」に準じ、研究者として自立した能力を示す学位論文執筆の準備ができていると判断されること。
- ⑧ 留学予定者の場合は帰国後に実施し、長期履修者の場合は「2年次終了相当」の時期に実施するなど、指導教員との相談のうえで、報告時期を柔軟に調整する。
- ⑨ 合格後の研究の進展により、学位請求論文のテーマや方法が変化しても構わない。なお、不合格となった場合、指導教員・副指導教員により3年次の5月までに再審査を行う。

参考： 学位論文審査の規準

1. 問題意識が明確であり、かつテーマ設定が説得的であること。
2. 当該テーマのための方法が形成されており、かつ全体の叙述の中に貫かれていること。
3. 内外の研究文献と研究状況が必要な限りで把握されており、それを前提として展開されていること。
4. 叙述の過程の中で適切な仕方で論証および実証がなされていること。
5. 結論がそれまでの展開を踏まえて説得的に提示されていること。
6. 全体として、当該テーマに関する従来の研究状況に対して、意識的にオリジナリティーを付け加えていること。

以上の項目は研究分野によってその必要度が異なるので、それを考慮して柔軟に適用するものとする。

5・エントリー

エントリーシートに必要事項を記入し、事務室にメールで送付すること

(soc-km@ad.hit-u.ac.jp)。申込期間は2023年11月8日(水)～2024年1月15日(月)。